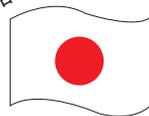


山梨県神社庁報

かみがね

祭日には国旗を掲げましょう



8月11日 山の日
9月15日 敬老の日
9月23日 秋分の日
10月13日 スポーツの日

令和7年夏号 (第210号)



富士御室浅間神社 流鏝馬祭

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩
とに感謝し、明き清
きまことを以て祭祀
にいそしむこと

一、世のため人のために
奉仕し、神のみこと
もちとして世をつく
り固め成すこと

一、大御心をいただきて
むつび和らぎ、国の
隆昌と世界の共存共
栄とを祈ること

神社本庁五月定例評議員会報告

本庁評議員 上文司 厚

神社本庁の五月評議員会が大講堂にて去る五月二十二日、二十三日、二十四日と三日間開催された。

第一日目は午前十時に開会され、先ず鷹司統理が挨拶。次いで来賓の久邇朝尊神宮大宮司と打田文博神道政治連盟会長が各々挨拶した後、開議となった。今期は評議員改選期なので議長が選任されるまで田中総長が議事を仕切った。議長、副議長選挙は選考委員会に附託された。地下会議室で行われた委員会では、関東地区から北山秀彦千葉県神社庁長の再任が推され、九州地区から福岡県の西高辻信良評議員を推薦する発言があり、委員による無記名投票で決することとなった。結果は十一票対十票で西高辻氏が選ばれた。副議長は三輪田泰生愛媛県神社庁長、吉野利明東京都神社総代会長が選出された。本会議が再開され選考委員長がこれを報告。これに対し選考票数が僅差であるので評議員全体で表決すべき、またこれに反目する意見で

対立したが、田中総長が委員会報告を諮り「異議なし」を認め報告の通り承認され、新たな議長、副議長が着席し残る日程が審議され第一日目は終了した。

第二日目は午後一時に開会。前日の本会議終了後に開催された議案審査特別委員会の委員長が審議経過を報告。報告の通り三件の追加議案が本会議に上程することが決定された。次いでこの日の午前中に開催された予算審議特別委員会の委員長が結果を報告。予算関連の二議案が報告の通り可決された。続いて、「総長選任に関する一連の諸問題について」の報告となったところで、報告の取り下げの緊急動議が提出され討論となった。これについては「経過説明書(案) (総長選任に関する一連の諸問題について)」と題する資料が事前に評議員全員に送付され内容は浸透していたこともあり、取り下げ賛成、反対双方の主張の応酬となり、採決は無記名投票に委ねられることとなった。結果は賛成六十九票、反対

六十八票、無効七票で、賛成が過半数に達しないことから動議は不成立、「経過説明書(案)」について荒井総務部長が説明した。この説明に対しても相反する意見が多出した。

第三日目は午前九時三十分に関議。先ず統理選挙では総長が鷹司統理を推挙。異例の意見も飛び出したが、賛成多数により鷹司統理の再任が決まった。次に理事・監事選挙となり選考委員会が別室にて開かれ、選考結果の通り理事・監事が承認され本原の小佐野正史庁長が理事に再任された。この後の議事は無事に進み経て、統理及び総長の挨拶があり三日間に亘る会議は閉会となった。

【訂正してお詫びします】
前号(二〇九号)の「神社庁新役員」記事におきまして、総代会役員の奉仕神社名に誤りがございました。
ここに正しい内容を改めて掲載するとともに、関係者の皆様にお詫び申し上げます。

総代会
理事 穴切大神社 山本 力
理事 檜峯神社 堀内 常雄

外郭団体新役員報告

山梨県神道青年会

会長 富士小御嶽社 小佐野 正宗

副会長 浅間神社 古屋 真東

副会長 八幡神社 深澤 宜彦

副会長 昔宮高齋社 丹沢 稜

山梨県女子神職会

会長 御崎神社 上條 節子

副会長 八王子神社 福住 春子

山梨県教育関係神職協議会

会長 浅間諏訪神社 郷田 盛直

副会長 神明社 竹俣 忠洲

山梨県氏子青年協議会

会長 昔宮高齋社 田中 慎

副会長 稲積神社 五味 隆彦

山梨県神職保護司会

会長 宇波刀神社 石原 鎮

副会長 小室浅間神社 宮下 重範

副会長 金山神社 金子 寿元

山梨県神道雅楽会

会長 穴切大神社 秋山 忠也

副会長 金山神社 金子 寿元

山梨県敬神婦人連合会

会長 浅間神社 古屋 真紀子

副会長 稲積神社 丹澤 起恵子

副会長 武田神社 山本 育子

副会長 小室浅間神社 渡邊 かおる

顧問 武田神社 乙黒 夏恵

全国神社総代会定例代議員会報告

山梨県神社総代会 副会長 石 原 英 司

神社本庁に於いて五月二十日
全国神社総代会定例代議員会が
午前の役員会に続き午後一時よ
り大講堂で全国より百一名の代
議員が出席し厳肅の中、修祓
後藤副会長に合せて拝礼のの
ち昨年の代議員会以降に帰幽さ
れた関係物故者に黙祷が行われ、
会長挨拶並びに統理挨拶で会議
が始まりました。

会長の挨拶では終戦八十年に
当たって、四月に天皇・皇后兩
陛下が硫黄島への行幸啓遊ばさ
れたことや第六十三回神宮式年
遷宮・山口祭と木本祭が斎行さ
れたことなどに触れられた。

統理挨拶では靖國神社・護国
神社への参拝勸奨や正しい歴史
認識の啓発に尽力すること、第
六十三回式年遷宮に向けて神宮
大麻増頒布活動を推進し国民総
奉賛の気運を高めていく旨を述
べた上で、本庁が来年設立八十
年を迎える事を報告された。

続いて本年が役員改選にあた
り、十河清副会長の進行で議
長・副議長選挙が行われ議長に
安藤元博氏、副議長に加藤浩一

氏と西館隆氏が選出された。休
憩後、議事録署名議員二名が指
名され議事に入った。

議事では吉川事務局長が、令
和六年の会務報告、本庁財務部
長が令和五年度歳入歳出決算を
説明し南部監事が監査報告を行
い承認された。

続いて令和七年度事業計画と
歳入歳出案が審議され、原案通
り承認され六つの実践目標が掲
げられた。

①皇室敬慕の念の涵養と神宮崇
敬の念の醸成を図る為の活動
推進に努める

②靖國神社・護国神社参拝運動
を推進する

③祭祀祭礼の次世代への継承と
地域社会の再生・発展に努める

④神道の精神に基づき次代を担
う青少年の健全育成と鎮守の
森の保護育成に努める

⑤国旗・国歌及び祝日の意義啓
発と我が国柄の継承に努める

⑥適正な神社運営を図り、神社
の奉護に努める

以上の六項目が掲げられました。
六つの実践目標の中でも特に

終戦八十年に鑑み神社本庁が展
開している、靖國神社・護国神
社への参拝運動の趣旨に賛同す
ることを明記し、次世代を担ふ
世代に先人の苦難の歴史を正し
く伝え、靖國神社・護国神社が
国家安泰を祈念する神社である
と啓発する事などを掲げています。
又、長野県で十月二十八日に
開催予定の第六十回全国神社総
代会大会について荒井本庁総務
部長が説明、主幹県の代表者が
挨拶された。

任期満了に伴う役員選挙は小
林会長の留任が決まり、各役員
が選出されました。長時間の会
議にもかかわらず疲れも感じさ
せない程の慎重審議の下、無事
会議は終了致しました。

新役員は次の通りです。

会 長 小林 健(日商會頭)

副会長 後藤 康雄(静岡)

東園 基政(神宮)

十河 清(高地)

山田 啓二(京都)

理事には十名の皆様が各地区
より選任

監 事 南部 利文(岩手)
渡邊 倫章(宮崎)

議 長 安藤 元博(大分)

副議長 加藤 浩一(茨城)

西館 隆(青森)

支部総会報告

東八代支部総会

日時 五月二十四日(土)
場所 浅間神社

峡南支部総代会総会

日時 五月二十五日(日)
場所 六郷町民会館

峡中神社総代会並びに

山梨県神社庁峡中支部総会
日時 六月二十五日(水)
場所 櫛形生涯学習センター

峡北支部総代会総会

日時 六月二十六日(木)
場所 須玉ふれあい館

各総会には小佐野庁長、小尾総
代会長が出席しました。

今後開催予定の支部総会

甲府支部神職総代会合同総会
日時 七月二十二日
場所 ベルクラシック甲府

北都留支部総代会総会

日時 七月二十三日
場所 大月市民会館

東山梨支部総会

日時 八月二十九日
場所 山梨市民会館

南都留神社関係者大会

日時 十一月開催予定
場所 ハイランドリゾートホテル&スパ

神社本庁規程表彰を受けて



十五所神社
宮司 篠原敬逸

二月三日に神社本庁より規程表彰を授かり五月二十一日に明治記念館に於いて表彰をして頂きました。

先祖より代々受け継いできた神職を先代宮司が引き継ぐも六十代初めに病に倒れ、仕方なくと言うか泣く泣く東京から山梨に戻り三十年が経ちました。紆余曲折を経て神職の資格を頂き今日に至っております。

武田神社の権禰宜を拝命してから、何のことやら分からないまま神道青年会に入会し、時は青年会設立五十周年の節目でありました。土橋俊彦先輩に誘われ執行部会にお邪魔した際に、周年事業の一事業として「十五所神社の御神田で米を作ってみませんか？」と提案したところ、諸先輩方から心よくご理解を頂き稲作事業が無事に完遂でき青年会に尽力できたことを懐かしく思います。

平成十三年には上皇、上皇后陛下による全国植樹祭が北杜市

増富に於いて開催され、日本国旗の小旗を沿道の皆様にお配りし、両陛下をお迎えできた事が昨日のように思い出されます。

良いことばかりではなく、辛いこともあった中、一番悲しかった事は先代宮司が障害者となった為、金櫻神社の禰宜また本務神社である十五所神社の宮司を退任させたときは父に「辞めなさい」と言うことほど言葉に詰まったことはありません。

二十代後半に神職となり「どうすれば、何をすればお宮に人が集まるのだろうか」と考えながら三十年が経ちました。家族だけでお宮をお守りしているので限界があります。ならば一期一会を大切に一人一人に向き合うとを考え、ご祈願に来る方とは時間が許す限りお話をし、外祭や神葬祭などでお会いする方とは「山の中の神社で遠いですが、もしよろしければ来てみませんか」と声をかけ、正月の初詣客は増えるようになりまして。

この度、この表彰を授かり改めて考えて見ると有名神社、規模の大きな神社には役割があり、田舎の小さな神社にはまた別の役割があるのだろうと思

ます。

良かった事、間違ってしまった事、様々な経験をさせて頂きました。これからもこの経験を元に神様を中心に、皆様方の支えである存在でありたいと日々精進して参ります。



富士山小御嶽神社
権禰宜 佐々木浩文

今度去る二月三日神社本庁設立記念日に合わせ神社本庁規程表彰被表彰者が発表され、図らずも不肖私が神社本庁規程表彰第三条第二号の栄を賜り、只々恐縮の極みと身の引き締まる次第であります。

表彰式は五月二十一日明治記念館で挙行され、小佐野神社庁長様を始め神社庁役員の方々、表彰者所属の支部役員総代の方々に見守られる中、池田厚子総裁の式辞を鷹司尚武統裡が代読され、鳩杖を受けられた賀茂御祖神社 新木直人宮司様が被表彰者を代表として謝辞を述べ聖寿の万歳をもちまして閉会となり、その後東郷記念館へ移り、山梨県関係者が集い祝宴が開催され多くのお祝いの言葉を頂き

改めて表彰の重みを感じた次第でありました。

私は御縁あつて山梨の地へ神職として奉仕し早三十一年目となりましたが、ここまで至るまで奉仕神社関係者の皆様を始め県内外の神職の先輩諸賢また後輩神職の皆様、同期の友人達の叱咤激励を多く頂戴して、この日を迎えられるのかと感じております。

この本表彰に際して皆様方に篤く感謝申し上げます。

振り返りますと私が三十年前に奉職した時代と大きく変化したと感じております。まずは私の基となつております「みこともち」の志を崩さぬよう教養研鑽を変わらず続け、さらなる神明奉仕に精励し、斯界の益々の興隆の為に勤めていく所存でございますので、今後ともさらなる御指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



石和八幡宮
総代長 高野博夫

五月二十一日、明治記念館において開催された令和六年度神社本庁表彰式において、表彰規

程第三条第三号該当者として表彰されましたので、ご報告致します。

緑豊かな芝生が映える庭園を望む会場に、全国各地から続々と関係者が参集し、開会に近づくと連れ緊張感が高まりました。

厳粛な雰囲気にも包まれ、式次第は進み神職関係者の表彰に引き続き、第三条第三号該当者八十四名の名前が読み上げられました。そして、代表者が総裁代理の神社本庁統理鷹司尚武様より表彰状の伝達がなされました。

表彰式の閉式後会場を東郷記念館に移動し、山梨県神社庁主催の祝賀会が開催されました。受賞記念パッチを小佐野庁長より着けて戴き、改めてその受賞の重みを実感しました。

さて、私の奉仕する石和八幡宮は、平成十八年十月に発生した失火により、その多くを焼失してしまいました。何とか新社殿をと、再建活動が始まった頃でした。縁あり総代として関わることとなりました。宮司など神職を中心にまず、地域氏子の皆様へ奉賛をお願いすることに、地域住民を対象に説明会

を開催してきました。こうした活動を重ねることにより住民の神社に対する思いを知ることになります。平成二十一年十二月に新社殿の遷座の儀式を斎行することができました。

人口減少、少子高齢化が進み地域活性化が叫ばれて久しい昨今です。その鍵を握る一つが神社だと思います。鎮守の杜に守られた神社で、子ども達の遊ぶ声が飛び交い、祭りでは神輿が練り出され屋台を若者たちが覗き込んでいます。そんな風景を思い浮かべます。総代は神職と協力して、心休まる場所、地域住民相互の絆を確かめ合う場所として神社の運営護持を努めて行くことが肝要です。

この度の神社本庁規程表彰の拝受は身に余る光栄であり、受賞にご尽力戴きました山梨県神社庁はじめ関係各位の皆様には感謝申し上げます。

この受賞を糧に山梨県神社庁及び総代会の発展のために微力ながら尽くして参りたいとの覚悟でおりますので、今後共ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。有難うございました。

全国神職保護司会大会報告

山梨県神職保護司会 稲葉政信

六月十八、十九日、全国神職保護司会大会を山梨が主催県として石和温泉郷石風にて開催した。今回の大会は、本来であれば、昨年九月に開催予定であったが、台風の影響で中止となり、令和七年にリベンジした大会であった為、会員皆は万全を期して大会成功に臨んだ。

一日目は梅雨中にも関わらず、前日に全国一位の気温三十八度となり当日も三十五度の猛暑日の中、全国より四十五名の参加者をお招きし、十四時より大会を開催。神社本庁総長、関東地方保護委員会委員長、甲府保護観察所長、笛吹市長、小佐野庁長の祝辞を頂き、令和六年度の事業決算を承認頂き、令和七年度の予算計画が承認された。また講師に立川談慶師匠をお招きして話し方講話と落語で終了。十八時の祝賀会では、古屋副庁長振る舞いのワインの紹介を頂き乾杯、甲府囃子保存会の清興があり、懇親会の場を参加者皆で満喫し、最後に小山副庁長による二日目のサドヤ紹介

を頂き一日目を終えた。二日目は、十時に金桜神社正式参拝、志村宮司より丁寧なご祈禱を頂き、境内には暑さと邪気を払い避ける風鈴も応援し、皆清々しい気持ちで、昇仙峡仙娥滝を散策しマイナスイオンをたっぷり浴びた後は、甲府駅に戻り、サドヤワイナリーにおいて昼食を取り、二日間の日程を終えた。

今回、全国根津副会長、山梨県石原会長を中心とし、会員十名が一致団結して、全行程を成し遂げられたことに感謝し、神職保護司としての使命に邁進することを改めて考えさせられた。二日間であった。



神道政治連盟中央委員会報告

神道政治連盟山梨県本部 本部長 渡邊 平一郎

去る六月十日神社本庁大講堂に於いて、各都道府県本部長をはじめとする中央委員出席のもと神道政治連盟中央委員会が開催された。通常の開会儀礼のあと、打田会長が挨拶され、三月八日に沖縄県護国神社に於いて、神道政治連盟主催で斎行した「終戦八十年全国戦没者慰霊祭」、中央委員会に先立ち靖国神社正式参拝の報告を行い、現在我が国を取り巻く安全保障環境の厳しさが増す中での早期の憲法改正の必要性、又選択的夫婦別姓等、様々な問題に対して神道政治連盟議員懇談会や他の団体と連携して取り組むとの挨拶があった。

次に来賓として田中恆清神社本庁総長が「神道連を中心として、神社人が口だけでなく行動によって様々な問題に対し国民運動を盛んに起こしていくことに期待する」との挨拶、続いて自民党の森山裕幹事長が日頃の神道政治連の自民党への変わらぬ支援への御礼を述べられた。

その後、経済安全保障担当大臣で神道政治連国会議員懇談会事務局長の城内実衆議院議員がこれからも日本の為に神道連と共に行動する旨の挨拶をいただいた。最後に今夏に行われる第

二十七回参議院議員選挙における神道政治連推薦候補有村治子参議院議員が推薦への謝意を述べられ、保守本流として強い信念を持ち行動していく旨の発言と、今度の選挙の厳しさを述べられた。

開会式が終わり議事に入ったが、本年は三年に一度の改選の年なので先ず議長・副議長の選出、議事録署名委員の選出を行い、議案の一号から五号までの令和六年度事業報告・令和五年度一般会計歳入歳出決算・令和五年度特別会計収支計算書・令和七年度活動方針・事業計画案・令和七年度一般会計歳入歳出予算案がすべて原案通り可決して、役員改選が行われた。会長に打田文博氏、副会長に林秀俊氏、同じく副会長に我が山梨県神社庁長 小佐野正史氏、幹事長に高麗文康氏、総務会長に上田正宙氏を選出、綱紀委員、監査委員、副幹事長、総務をそれぞれ選出して閉会となった。私も副幹事長として選出された。近隣諸国を含めた国際情勢が厳しい中神道連の活動方針に沿った活動が如何にできるかが問われる三年間となる。身が引き締まる思いで頑張ります。どうか宜しくお願い致します。

神道政治連盟 神道政治連盟国会議員懇談会 創立五十五周年記念式典

神道政治連盟山梨県本部 幹事長 根津 佳明

去る令和七年六月九日に『神道政治連盟・神道政治連盟国会議員懇談会 創立五十五周年記念式典』が、「ホテルニューオータニ」にて執り行われました。

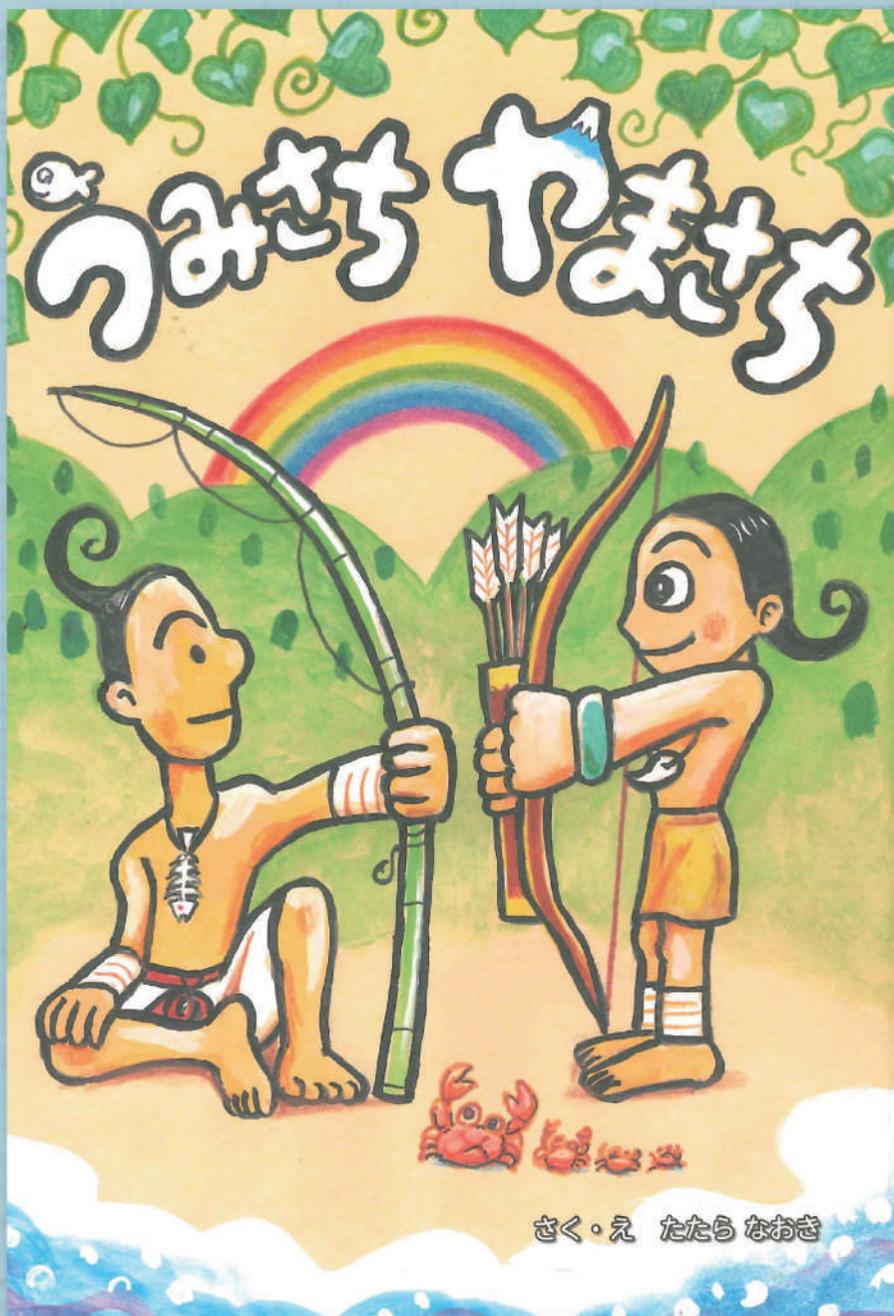
我が国は昭和二十一年の敗戦後、GHQによる占領により国史上未曾有の国難に遭い、さらに神社界では神道指令により神社の存在そのものが危ぶまれる危機的状况にありました。その真只中、神社本庁を設立し大きな包括宗教団体として、神社の維持運営のほかに、神道指令に起因する多くの難問の解釈と対応に取り組んできました。しかしながら占領が解かれた後も、絶えず憲法や政治との関わりの中で、深刻な課題を持ち続け、その課題は神社界の問題にとどまらず、広く日本国の精神思想に関わる重大問題であり、解決に努力奮闘する中、神社界が政治とのパイプの必要性を認識痛感したのは当然の成り行きでありました。そんな当時の神道人が痛感した心持ちが契機となり、「わが日本国の現状は、

内に外にまことに憂念禁じ難きものあり。よつてこの際、神道の精神を以て志を同じうする者相ばかり、民族の道統を基調とする国政の基礎を固め、且つその姿勢を匡す」ために、昭和四十四年に結成され、着実に成果を上げて来られました。昨今の事業では「①皇室の尊厳護持 ②憲法改正 ③教育の正常化と正しい歴史観を後世に伝える ④靖国神社参拝・英霊慰霊顕彰・国家護持 ⑤政教関係 ⑥国家主権と領土問題 ⑦復興支援 ⑧夫婦別姓やLGBTQなど家族制度問題 ⑨神社の護持継承」など時局対策にも取り組んでおります。

「神道の精神を以て、日本国国政の基礎を確立せん」為。しいては日本人としての道徳や精神を取り戻し、日本人らしい「利他の精神」で「感謝」の誠を捧げ合い、あたりまえのことを「あたりまえ」と言えるようになるため、日々精進し、活動してまいります。神道連の活動が必要なくなることを夢みて、報告と致します。

絵本 日本の神話

うみさちやまさち (第二話)



お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。

「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供
問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―十
電話 〇三―五七七五―一四四五

一冊 二〇〇円



しかし タケミカツチは すずしい顔。
とつぜん うでが カチン コチン、
カチコチの 氷こおりに 変かわったのです。

「なんて こった！」

すると 今こんど度は シヤツキーン！
するどい つるぎに なったのです。

「そんな ばかな、おったまげた。
おいらの 負まげだ、ごめんなさい。」

タケミナカタは
すたこらさつさと にげていきました。





「ど
うですか、

この国を ゆずってくださいますかな？」

オオクニヌシは こたえました。

「あとは おまかせいたします。

しあわせな国を作ってください。」

オオクニヌシは 大きな ござんで

しずかに くらすことにしました。





そのようすを すべて 見ていた
 アマテラスさま、
 まごの ニニギノミコトを 呼び出しました。

「あなたが けんかのない
 しあわせな国を 作るのですよ。」

「わかりました、おまかせください。」

ニニギノミコトを のせた 雲が
 すーい すいと 下りていくと、
 高い山に きれいな にじが。
 「あのあたりが、いい場所だ。
 あそこで 暮らすことにしよう。」



支部・総代会だより

東山梨支部

大井保窪八幡神社

宮司 日原 太郎

私が奉職いたします大井保窪八幡神社は、山梨市北の地に鎮座しております。この地に祀られて以来、一千年を越えて、今も変わらぬ信仰の中心として地域に根ざしています。

現在の御本殿は、永正十六年（二五一九年）、武田信虎公により再建されたもので、五百年を超える歳月を刻んでおります。この御本殿をはじめとして、信虎公、そしてその子・信玄公の時代に営まれた社殿群は、今に至るまで歴史と信仰の証として大切に守られてまいりました。合わせて九棟十一件が国の重要文化財に指定されていることは、私たちにとって誇りでもあり、また重責でもあります。

文化財としての価値もさることながら、これらの社殿は単なる「古い建物」ではありません。神々をお祀りし、私たちが日々の祈りを捧げる神聖な場であり、また、これほどの長きにわたり、

社殿を護り続けるためには、様々な配慮と不断の努力が求められます。とりわけ、檜皮葺（ひわだぶき）の屋根は、数十年に一度の葺き替えを必要とします。現在も、神門の屋根の葺き替え工事が進められており、神社にとって日常の営みの中に「護る」という行為がいかに大切であるかを、あらためて実感させられます。

社殿を護るということは、ただ建物の保存を意味しません。神社は、人と神とをつなぐ場であり、また過去・現在・未来を結ぶ場でもあります。私たちが今この社を護り、次代へと受け継ぐとする営みは、過去の人々の労苦と信仰を継ぐものであり、未来の人々のための礎を築くことでもあるのです。

こうした営みを成し遂げるには、私一人の力では到底及びません。氏子の皆様をはじめ、山梨市・山梨県のご支援、さらにはこの先を生きる、未来の人々の理解と協力があつてこそ、はじめて可能となることでしょ。そのような思いを胸に、私は日々、社務にあたらせていただいております。

武田氏ゆかりの本社が、これからも地域の心の拠りどころとしてあり続けること。日本の歩

みと共に、本社が末永く護持されていくことを、心より願ってやみません。

東八代支部

甲斐國一宮淺間神社

総代会長 海野 一幸

人生には想定もしないことがよくあるものです。地元のマスコミグループで仕事も順調だった五十五歳。突然ヴァンフォーレ甲府の経営を任されました。当時チームは四億五千万円もの累積赤字を抱えて解散寸前に追い込まれ、存続は奇跡とされた状況でした。

それから二十二年、多くの関係者の協力を頂き、チームはJ1に八年も在籍するなど県民に愛される存在に成長、二年前にはこれこそ思いもよらず天皇杯優勝というご褒美を頂き、私はそれを饒（はなむけ）にすべての業務を引退しました。丁度、喜寿の祝いと重なった幸運でした。ここからは余生、おまけの人生であり、親から引き継いだ小さなワイン用葡萄畑の栽培を中心にした生活という心づもりでいたところ、引退を待っていたかのように様々な役職が舞い込みました。神社、寺院、

病院、保育園、高校・大学の同窓会等々。加えてチームのホームゲームの観戦や趣味のゴルフ、いくつかの無尽会、友人たちとの小旅行、子供や孫との会食と手帳は現役時代にひけをとらず予定で埋まっています。

これまでお世話になった地域への恩返しとばかり頑張っていますが、四月からの浅間神社総代会会長就任は想定しなかったことのひとつでもあります。今から一六〇年前に祀られた山梨県で最古という神社の責任役員には浅学非才の身としてはその任にあらずですが、地域社会の心の拠り所としての神社と住民を繋ぐパイプ役として微力を尽くせたらと思っております。

浅間神社は「おみゆきさん」として知られている大祭のほか、年間を通して多くの祭事が行われます。また毎月一日は月次祭として祭典参列後、境内末社一、二か所を巡拝、神様のご神徳を頂いております。最後に私が経験した神社の御利益を紹介いたします。長い間不妊治療が続けてきたチームの三人の選手が参拝し、ここ数年間に何人もの子を授かり安産子宝の喜びを得ています。木花開耶姫命のご加護に敬服するばかりです。

祭典を斎行して

夏越大祓式齋行

甲斐奈神社

宮司 高原 光啓

大祓は、自らの心身の穢れや災厄の原因となる諸々の罪・過ちを祓い清めるために、多くの神社で行われる神事である。とくに、六月の大祓は夏越の祓、十二月の大祓は年越の祓とも呼ばれる。

これら大祓は毎年行われる恒例式であって、祭ではないものの、当社では大祓祭と称し、六月の最終土曜日に夏祭りとい合わせて行うところに特色がある。定期的に七夕より前に行われ、走りの夏祭りと称される所以である。



祭典当日、夕日の降つ頃、参道上に設けられた茅の輪前において大祓式が行われる。境内を埋め尽くすほどに参集した氏子崇敬者による大祓詞奏上は庄巻である。

境内外では、夕刻まで神楽の奉納や神賑行事が続き、社前にはお店が立ち並び、随所で賑わいを見せる。参拝者は氏子総代や神社を通して配られた人形に罪穢を撫でつけ、お宮に返納する。各々茅の輪をくぐり、多くは昇殿し夏病消除の祈禱を受ける。氏子崇敬者にとつて、参拝とは昇殿参拝であり、祭とは真剣な祈りを行う場と受け止められているところに、当社の誇りがある。

こうした様子は、前宮司が本誌五十二号（昭和六十年発行）に寄稿した内容とそう変わらない。さらにさかのぼると、社誌（昭和十五年発行）に記される概況と大きく変わっていない。ただ、コロナ禍、氏子区域の少子高齢化、街商など社会状況の変化を受け、夜祭りから昼祭りに移行している。

とは言え、神前で祈りを捧げ、夏越の力を受けると共に、残る半年の息災を願う氏子崇敬者の

姿はいささかも変わっていないのである。大祓祭が過ぎると甲府は暑い夏を迎える。

第四六回富士御室浅間神社

流鏝馬祭を斎行して

富士御室浅間神社

宮司 濱 陽 一

令和七年四月二十九日、素晴らしい快晴の下で富士御室浅間神社流鏝馬祭が斎行されました。当社では、主たる神事は殆どが里宮で斎行されるのですが、年間唯一、この流鏝馬祭だけは富士山二合目から遷座された本宮の御扉が開くという事になります。昨年、遷座五十周年の記念事業の一つとして、本宮拝殿から玉垣に掛けて新たに朱を塗り直したのを機会に、大日本弓馬会の騎馬武者達を神職と向き合つてゆつたり並べさせた為、座列はより壮観になった気がします。

当社の流鏝馬は、後三年の役に際して新羅三郎義光公が苦戦を続ける兄の源義家公の援軍と成るべく、官職をなげうって甲斐の国に出兵し、富士御室浅間神社に神護を乞い祈願をする事

二十一、満願の夜明けと共に濁り酒を酌み交わして発進、兄弟軍協力して善戦し敵を鎮定しました。その神恩報賽に流鏝馬神事を奉納したという故事に倣つて行われるようになりました。射手の技は素晴らしいもので、馬上での身体の上下の動きは殆ど見られず皆、流れる様に的確に狙っています。これは「立ち透かし」と言われる足で馬体を扶まず、腰は鞍に触れず紙一重で浮かしているという習得が大変困難な技です。この辺の妙技も皆様にじっくり見て頂きたくて、今年から馬場の横にテントを張つて、そこを来賓の直会席と致しました。お陰様で気持ちの良い春風が吹く中、大変賑々しく盛大に開催されました。御関係の皆様方、御参拝御協力誠に有難うございました。



教化委員会親子参宮団報告

事業部員 内藤 希

春爛漫の去る令和七年三月二十八日から二十九日、神社庁教化委員会主催の親子参宮団が実施された。乙黒洋委員長を始めとして、小学生十二名・中学生七名を含む総勢四十五名の一団が伊勢の神宮と名古屋港水族館の旅路を巡った。早朝、この日を心待ちにしていた我が子二人とバスに乗り込み、一路伊勢へ。バスの中では、天照大御神を祀る皇大神宮、豊受大御神を祀る豊受大神宮の御神徳を中心に、今日の学校教育では学べない講話とVTRによる事前の神道教化学習が行われた。

伊勢路を経て、先ず外宮に正式参拝を行った。鳥居をくぐり玉砂利を踏みしめてご神苑を進むと、子供達は真剣な眼差しになり背筋を伸ばして御垣内参拝を行い、熱心に荘厳な御神楽に見入った。神宮で調理されるお米と、豊潤な山海の幸・日本酒などの大御饌は日本の伝統文化と国土の豊穡さを表している。

食事に対する感謝の気持ちについて子供と話しながら後にした。夕方、参拝客で賑わうおはらい町に出て、五十鈴川河畔やおかげ横丁を散策した。夜は、

神宮会館にて伊勢志摩の豊かな海の幸の会席料理と豪華なお子様御膳の饗宴となった。夕食後、愈々内宮の夜間特別参拝に向かった。宇治橋を渡り神宮の森に入ると、夜のしじまの中に神の息吹を肌で感じ、圧倒される御神威に満ちていた。手を合わせ何事かを呟く我が子の真剣な横顔に、心が満たされ活力を戴いた事を感じた。この特別な夜の参拝は、子供達が成長する力となり糧となり、きつと生涯忘れる事のない宝物になるだろう。翌朝六時の内宮参拝は、霧雨の中を丁寧なご説明を受けて廻った。名古屋港水族館では、海の生き物に目を見張り大喜びした事は言うまでもない。

育んだ友情、そして綿密にご準備を重ねられた関係者の皆様にご心より感謝を申し上げます。

伊勢神宮早朝参拝を終えて
小松 麻衣

今回、母と小三の息子、小一の娘と私の親子三代で親子参宮団に参加させていただきました。子供達にとっては初めての伊勢参りで一日目は外宮参拝、御垣内参拝、御神楽奉納、おかげ横丁散策と夜間参拝、二日目は早朝参拝と名古屋港水族館という盛り沢山の日程でした。その中でも最も心に残ったのは、早朝参拝でした。当日は、朝から雨が降っており、三月下旬とは思えないほどの寒さ（九度）に出発前に心が折れそうになりました。しかし早朝参拝をとっても楽しみにしていたので、気を引き締め内宮へと向かいました。まだ薄明かりのなか、宇治橋を渡りきると、ポツポツと傘にあたる雨の音とザツザツという玉砂利の音が、朝の静寂のなか響き渡り、厳かな気持ちになりました。先に進むと五十鈴川の水の音に子どもたちは吸い寄

せられ、透き通る川の水の冷たさに感動していました。木々の合間から小鳥の囀りも聞こえ神聖な空気を感じながら前へ進みました。御正宮の石段は普段白っぽい色ですが、雨で濡れて青く変わり波のように見え、ラッキーなことだとお聞きし、雨も悪くないな、という気持ちになりました。御正宮では、雨も上がり太陽の暖かさの中でお参りでき、太陽と皇大神宮様との繋がりを改めて感じました。その後も荒祭宮参拝や御贄調舎や御稲御倉の説明をしていただきながら、宇治橋へと戻って行きました。出発時には足元ばかり見ていたのが、内宮をでる頃には清々しく前向きになっている私たちがいました。家族三代がこの貴重な体験が出来たことを心から嬉しく思います。感謝の気持ちを忘れずに心穏やかな毎日を送れるよう心掛けていきたいな、と思えた二日間でした。どんなに寒くても寒い素振りを全くせずに背筋を伸ばし冷静にされているご一緒いただいた神主さんたちのお姿も見習わなければと思います。二日間有り難うございました。

親子参宮団がもたらした

心の変化

渡邊 琴 美

私は、またとない貴重な体験をした。伊勢神宮外宮の誰も入れないところに入ったり、夜間参拝をしたということ。伊勢神宮に行き、何を書こうか迷ったが、伊勢神宮に行ったことで大きく気持ちが変わった事を書くと思う。

食事の時間の挨拶の時、私は今まで、簡単に『いただきます』や『ごちそうさま』とだけ言っていた。ホテルで夕食を取ろうとした時、神主さんに「みなさん、割り箸の入っている袋の裏側に注目してください」と言われ、裏を見てみたら、『食事作法』という文字が書いてあり、その文字の下の文章全体に目を通した。食事の始まりの時は『静座』してから一押し、一拍手する。そのあとに食事の始まりの和歌を詠み、『いただきます』と言う。また、食事の終わりの時は『端座』してから食事の始まりの時と同じ、一押し

て一拍手する。そのあとに食事の終わりの和歌を詠み、『ごちそうさま』と言う。驚いたのは、和歌を書いている人が歴史上の人物で古事記を解読したこと。有名な本居宣長であったこと。故人も神様のおかげで、毎年実がなつて、毎日食べられることは、とてもありがたいと思っていた。『いただきます』や『ごちそうさま』には海よりも深い意味があったことに感動し、故人からも神様のありがたみを感じた。

家に帰って私は気持ちの持ち方すべてに変化があった。食事の時には、姿勢を整えるようになり、気持ちを込めて『いただきます』や『ごちそうさま』を言うようになった。また、ツアー、企画、パンフレットを作ってくださった役員の方々、バスを楽しませてくださった添乗員ガイドさん、長い時間運転してくださった運転手さんに、ありがとう一言だけでは言い表せないほどの感謝の気持ちが湧いてきた。私は親子参宮団に参加して本当に良かったと思う。

心の糧

今村 純 奈

以前から伊勢神宮や日本の神々に興味があり、山梨や長野の神社を参拝したことはあった。しかし、神宮参拝を経験したことはなかった。

今回は特別に正宮の敷地内で参拝できた。豊受大御神へ日々食事できることへの感謝を伝えられた。また、荒祭宮へ参拝ができなかったため、遠くから参拝することとなった。

最後に神楽を見ることができた。和琴など楽器以外に、楽師という方が歌を歌っていた。その歌に合わせて、二人の巫女が舞っていた。予想よりもゆつたりしており、所作が綺麗で優雅な印象があった。今回見た神楽は人長舞で、日本が栄えるようにと願ったものだという。長い歴史の中で培われたものだった。

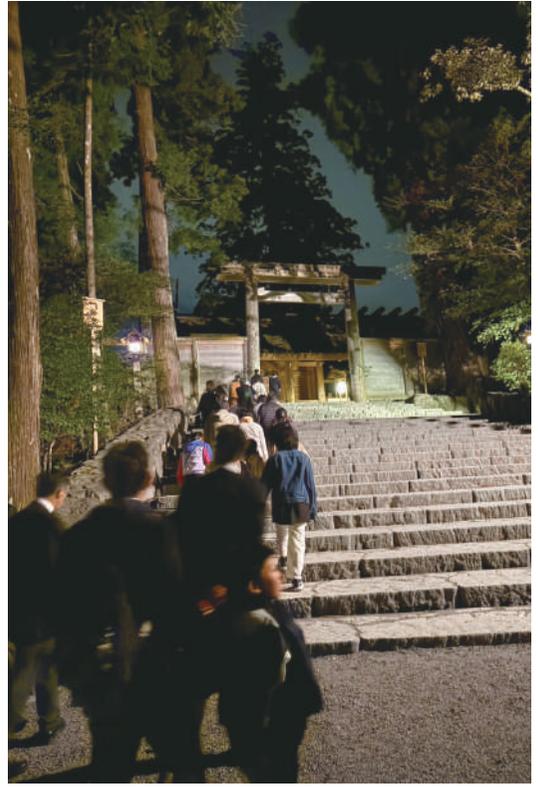
特に強く印象に残っているのは、夜の伊勢神宮の内宮参拝だ。普段見ることのできない夜の内宮の様子は、私の心を豊かにしてくれた。外宮と比べ正宮まで

の距離は長かったが、その分、内宮の自然の豊かさを強く感じた。

翌朝、私たちはまた内宮へと参拝した。先ず初めに五十鈴川の御手洗場でお清めをした。魚が泳いでおり、川も澄んでいた。五十鈴川にも神が祀られており、私たちを見守ってくださいさるのだという。

正宮の前の門には布があるのだが、その日は風が強く、敷地内の様子がよく見られた。残念ながら近くで参拝することはできなかったが、ここまで安全に訪れることができたことや日頃の感謝を伝えることができた。最後に荒祭宮へ参拝し、自分の願いを伝えた。

伊勢神宮では天照大御神と豊受大御神以外にも、神酒の神、内宮を守る神、川の神など、多くの神々がお祀りされていた。神宮参拝で、私たち日本人は多くの神々に見守られながら共存しているのだと実感できたこと、その神々に感謝し日々を生きていくことの大切さを学べたことが私の大きな心の糧となった。



祭典日程

9 ・ 23	9 ・ 18	9 ・ 15	9 9 ・ 14 9	9 ・ 7	9 9 9 ・ 6 5 4	9 8 ・ 1 31	8 8 ・ 29 26	8 8 ・ 24 20	8 8 ・ 17 16	8 8 ・ 15 13	8 8 ・ 13 3	8 ・ 1	7 7 7 ・ 31 27 20
部社招魂祭(戦没者慰霊祭) 高根町箕輪建部社秋祭・戦没者慰霊祭	富土河口湖町船津八王子神社例大祭 富土河口湖町船津高口神社例大祭	小室浅間神社例祭流鏝馬祭(十九日)	甲府市宮前町八幡神社例大祭 大月町花咲稲村神社秋祭 賑岡町浅利神田神社秋祭	富土御室浅間神社例大祭 神幸祭	甲府市宮前町八幡神社例大祭 大月町花咲稲村神社秋祭 賑岡町浅利神田神社秋祭	諏訪神社例大祭(八朔祭) 山中湖村山中諏訪神社例大祭(大笠笠日祭)	御坂町二之宮美和神社石尊祭	石和町市部石和八幡宮撰社祭(二十日祭)	北口本宮富士浅間神社鎮火祭(川除祭)	昭和田西条義清神社義清公慰霊祭	山梨縣護國神社みたま祭(十五日)	八幡宮三社合同祭	七保町下和田春日神社例大祭

10 ・ 20	10 10 ・ 19 18	10 10 ・ 17 16	10 ・ 15	10 10 ・ 14 13	10 ・ 12	10 10 10 10 ・ 11 10 9 6	10 10 10 9 9 ・ 5 4 2 29 25
富土河口湖町浅川山神社紅葉祭	甲府市宝切大神社秋祭例大祭 酒折宮例大祭 山梨市正徳寺唐土神社秋祭例大祭 身延町八日市場八幡神社秋祭 身延町帯金八幡神社秋祭 甲斐市富竹新田神明神社例大祭 甲斐市長塚八幡神社秋祭例大祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮秋祭例大祭	富土河口湖町船津八王子神社秋祭 富土河口湖町船津高口神社秋祭	甲斐國一宮淺間神社秋祭 甲府市善光寺柴宮神社秋祭 甲府市宮原町宇波刀神社秋祭 甲府市千塚八幡神社秋祭 富土吉田市上吉田山神社秋祭 富土吉田市新屋山神社秋祭	富土吉田市上吉田山神社秋祭 富土吉田市新屋山神社秋祭	山梨市大工天	山梨市大工天	山中湖村平野天神社御湯花祭 大月市駒橋三幡神社秋祭 長坂町大井ヶ森山諏訪神社例祭 甲府市朝氣野神社例大祭 山梨縣護國神社秋祭例大祭 南アルプス市小笠原笠原神社秋祭 須玉町小倉八幡神社秋祭 小淵沢町小淵沢北野天神社秋祭例大祭

今後の予定

○全国神社総代会大会

全国神社総代会大会に合わせ
て左記の日程により研修旅行を
実施いたします。

一、日時 記

令和七年十月二十八日(火)
二十九日(水)

一、会場 ホクト文化ホール
山梨県神社庁

電話 ○五五二八八〇〇〇三
FAX ○五五二八八〇〇〇五

※宿泊ホテル、行程、参加費は
支部役員・神社宮司にお尋ね
下さい。

○山梨県神社関係者大会

令和七年度神社関係者大会を
左記の日程で開催いたします。

一、日時 記

令和七年十月十四日
(火曜・赤口)午後一時

一、場所

YCC県民文化ホール
大ホール

神棚
差し上げます

山梨県神社庁
TEL ○五五二八八〇〇〇三



○新穀感謝祭

新穀感謝祭を左記の通り実施
いたします。

一、日時 記

令和七年十一月十三日(木)
十四日(金) (一泊二日)

一、神宮では御垣内にて特別参
拜、神楽殿での御神楽の奉
奏が執り行われ、参拝記念
品が撤下されます。

一、宿泊ホテル、行程、参加費
は支部によって異なりま
す、支部役員・神社宮司に
お尋ね下さい。

遷宮だより

小山利行

第六十三回神宮式年遷宮の御
用材を伐り始める御仙始祭が六
月三日、長野県内の木曾谷国有
林で斎行された。式年遷宮では
主要な祭典として、御神木のお
祭と社殿建築のお祭、神遷しのお
祭の三つの部分があり、この
内の初めの御樋代木(御神体を
納めるもの)が奉伐された。こ
の後、多くの御用材が伐採され
伊勢に選ばれ、来年の御木曳に
継がっていく。三年後の令和十
年には社殿建築のお祭として宇

治橋の工事が始まります。
本県よりは古屋副庁長、飯田
参事が参列した。

御仙始祭に参列して

山梨県神社庁副庁長

古屋真弘

六月三日小雨と言うにはいさ
さか憚られる雨の中、今年の一
月に御仙山に定められた長野県
上松町の木曾谷国有林において
第六十三回式年遷宮の御用材を
伐り始める「御仙始祭」が執り
行われ飯田参事と共に参列させ
て頂いた。

祭儀の定刻は十時からであつ
たが、些か交通不便の所であり、
早めに到着。ご用意頂いたマイ
クロバスに揺れること三十分。
祭場の木曾谷国有林に一時前
に到着。傾斜地を上手に切り開
き素晴らしい斎場が作られてい
た。参列者は三百五十人。特設
の棧敷席以外に、祭場を取り囲
む森の中には地元の小中学生が
合羽を着て祭事を見学してい
た。

祭場には皇大神宮御神木、豊
受大神宮御神木の二本が注連縄
を巻かれ聳え立ち「太一」の旗
が旗めく、定刻十時に黒田斎
主様御参列の元祭典開始。祭儀

は神宮職員が奉仕。各御神木の
前で全く同じ祭儀が行われた。
祭儀終了後、祭場の仮設テン
トが取り払われ、袖夫十四人が
両方の御神木に分かれ伝統技法
である「三ツ緒伐り」の技法で
斧を入れ約一時間後、袖頭の「大
山の神 左斧 横山 一本寝る
ぞ いよいよ寝るぞ」の掛け声
で皇大神宮の御料木が、続いて
豊受大神宮の御料木が倒され、
その二本が交叉する形で見事に
伐採された。祭典開始より三時
間三十分。我々参列者にとって
も至福の時間であった。



写真提供：神社新報社



神社庁
ホームページ